

秋期「緑の募金」趣意書

戦後の荒廃した国土に緑を取り戻そうと始まった「緑の募金」運動は、昭和25年に発足し、本年に68年目を迎えます。この間、多くの県民の皆様を支えられ、森林整備、学校・公共施設の緑化、次代を担う緑の少年団の育成など、県内の多様な緑化活動に大きな貢献をしてきました。

本県には、自然条件に起因する融雪、豪雨、地すべり、地震などの被災を受けた多くの爪痕が各地に残されております。これらの爪痕に緑の衣を取り戻そうと、県民の皆様の方に支えられながら、地域住民や緑化団体等のボランティアが、継続的に緑化活動を今日に至るまで展開してきました。災害に強いふるさとを守り維持していくには、このような森づくりを通じた不断の地道な緑化活動が重要です。また、緑や森に親しみ、ふれあいを求めるには、身近な地域にその拠点となる場所の存在も必要です。加えて、活動を維持し、継続していくには、次の世代を担う子ども達に、活動の輪を広げていくことも重要です。

秋期「緑の募金」運動が9月1日から全国一斉に行われます。“緑化活動は継続が力である”という思いのもとに、秋期「緑の募金」の目標額を、1,600万円に定め、災害に強い森づくりや地域の拠点となる身近な森づくり、そして、次の世代を担う子ども達の活動を支援するための「緑の募金」運動を実施いたします。

この運動によって皆様から寄せられた浄財を財源に、豊かな緑と潤いに満たされ、災害に負けない地域となるよう森林整備や緑化活動を支える、県民参加の森づくりを推進します。

このためには、多くの皆様の方の力を必要としています。皆様におかれましては、この秋期「緑の募金」の趣旨をお汲み取り頂き、この運動への御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成30年9月



公益社団法人 にいがた緑の百年物語緑化推進委員会
理事長 平山 征夫

